

# 滋賀県における風の特徴—主に湖陸風について

菊田 早絵子 (学生コース)

## 【研究目的】

滋賀県は周囲を山々に囲まれ、中央やや北部にびわ湖が位置する「近江湖盆」と呼ばれる盆地を形成し、特徴的な風系を多く生み出している。特に「湖陸風」は大きな湖の存在によって形成される風系であり、滋賀県の風を特徴づけるものである。本研究では、過去数年間において最もデータの充実している2007年を主な対象とし、年間の風の分布や湖陸風発生のメカニズムに迫ることを目的とする。

## 【解析に用いたデータ】

滋賀県内のアメダス9地点およびビワコダス9地点については、主に2007年の1年間の風向風速などの気象データを用い、本学が設置・連続観測を行ったテレメータブイについては、2002年11月から2003年10月までの1年間の気象観測データを用いた。

## 【結果・考察】

### ○2007年の風の分布と特徴

- 湖風は日中、陸風は夜間に限って出現し、前者は暖候期に、後者は寒候期に出現頻度が高くなる。
- 北西風は年間を通して発達し、特に夕方の発生が多く、小浜から日本海の海風が滋賀県に吹きこむためと考えられる。
- 南東風や南西風は低気圧に伴って出現し、その影響で雨天や曇天になることが多い。

### ○湖陸風の特徴

- 湖陸風は8月に最も安定して出現する。これは、日照時間が最も長く、陸上の気温が上昇しやすいためである。
- 湖上と陸上の気温差が $\pm 2^{\circ}\text{C}$ 以上になったとき、湖風および陸風の発生が明瞭になる。
- 出現時刻は、湖風が8時頃、陸風が18時頃であり、交互に入れ替わるような時間変化をする。
- 平均風速は湖風のほうが陸風より速く、風速比は1.4~1.7倍である。

### ○気象データの教材化について

- WEB上で可視化されているビワコダスやアメダスのデータの環境教育教材としての活用について検討した。

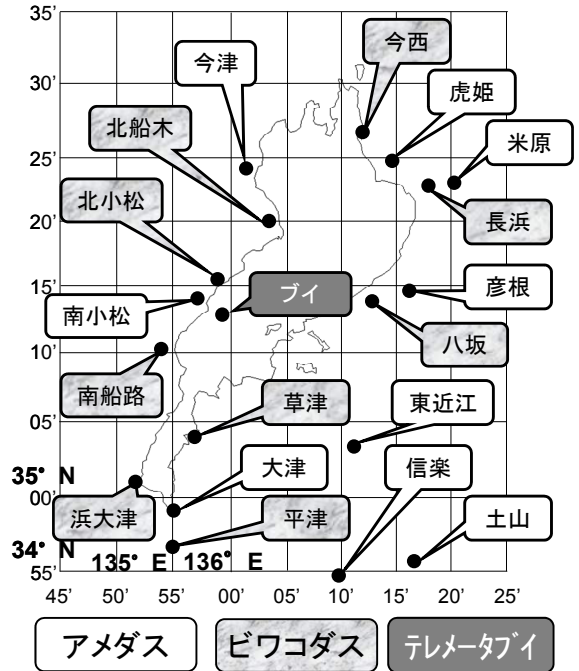


図1 各観測点の地点図

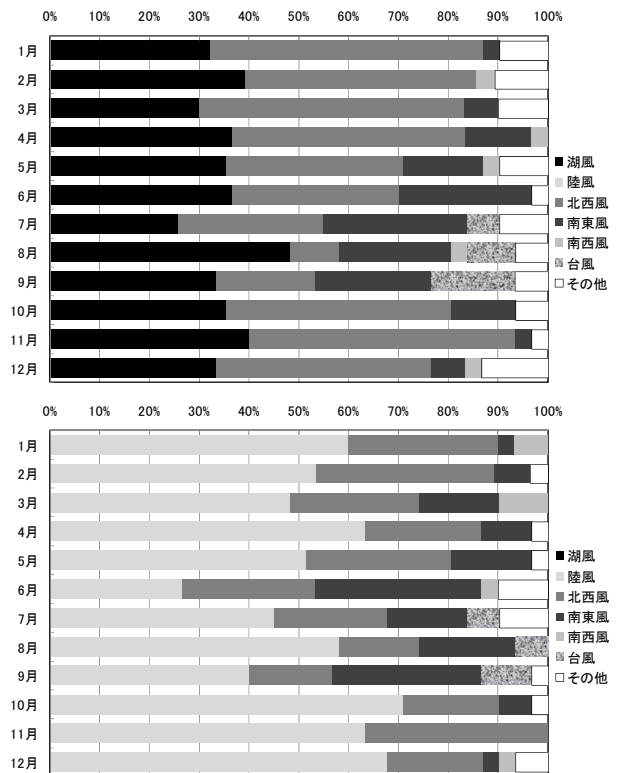


図2 2007年に出現した各風系の月別割合 (上段が日中、下段が夜間)